

## 平成30年産宮城米“食味レベルアップ”栽培技術情報 ～今後の水管理等について～

宮城県米づくり推進本部  
平成30年6月18日

### 1 水稻生育概況

6月11日現在の生育状況は、草丈29.8cm（平年比105%）、茎数264本/m<sup>2</sup>（平年比126%）、葉数7.3枚（平年差+0.5枚）、葉色（GM値）40.6（平年差+2.4ポイント）となっている。

県全体	草 丈			茎 数			葉 数			葉 色		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)
6月1日現在	23.3	93	98	104	94	94	5.4	▲0.2	0.0			
6月11日現在	29.8	105	105	264	147	126	7.3	0.8	0.5	40.6	4.7	2.4

※県内34か所（ひとめぼれ、ササニシキ、まなむすめ）のデータ

※平年比・平年差：前5ヶ年（平成25年～29年）の平均値との比較

### 2 有効茎数確保後の水管理について

#### 【中干しについて】

**ポイント** 茎数確保状況の確認 → 有効茎数を確保したら、直ちに中干しを実施

※ひとめぼれの有効茎数の目安（460本程度/m<sup>2</sup>）（H30稲作指導指針P60より）

本年は、有効茎確保の時期が例年より早まる可能性があるため、中干し等の実施時期が遅れないように留意する。

- 中干しの期間は7～10日間程度とする。遅くとも幼穂形成期前に終了する。
- 中干しの程度は、田面に小さな亀裂が入り、足跡が付く程度の固さとする。
- 水はけの悪い水田では溝切りを確実に行う。
- 中干し終了後、急に湛水状態にすると土壌の還元が急激に進み、中干しをしない場合よりも酸素不足になり根を傷めやすいので、中干し終了直後は走り水程度とし徐々に湛水状態に戻す。

#### 【飽水管理について】

- 従来の間断かんがいに比べ土壌を酸化的に保ち、根の活性が高まる水管理方法で、根腐れが発生しやすい倒伏の危険性が高い水田で有効である。
- 飽水管理の方法：水田の足跡に水がなくなったら入水し、表土が十分湿ったら落水する。
- 実施時期：有効茎確保後から落水期まで。
- 入水及び落水が的確に実施できるように、水田の溝切りは必ず行う。

### 3 新品種「だて正夢」の生育概況と今後の管理

<生育経過と今後の生育量の目安>

	6月1日現在	6月11日現在	今後の目安	
			幼穂形成期 幼穂長：1～2mm	減数分裂期 幼穂長：3～12cm
草丈（cm）	25.7	34.0	59～63	—
茎数（本/m <sup>2</sup> ）	110	261	440～480	410～450
葉色（GM値）	—	42.6	39～43	35～39
主茎葉数（枚）	5.3	7.2	10.0～10.8	11.3～12.0

※県内10か所の平均値

- 追肥は、登熟歩合と千粒重を高めるため、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aを基本に行う。  
有効茎数の不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に1kg/10aずつを施用することで、適正粒数の確保と登熟向上を図る。